

第3章 西区の沿革と特徴

1 沿革

西区の沿革は、おおむね次のとおりです。

～江戸時代

- 縄文～弥生時代 四ツ池遺跡などに大規模な集落が形成され繁栄する。
- 古墳時代 履中天皇陵古墳など、百舌鳥古墳群が造営される。
- 平安～江戸時代 紀州街道や熊野街道（小栗街道）を中心に商業町として発展する。

明治～大正

- 明治 6年 浜寺公園が日本最初の公園のひとつとして指定され、その後海水浴場や浜寺水練学校も誕生する。
- 明治 28年 南海本線が浜寺から難波まで開通。明治末期から浜寺～高石にかけて高級住宅開発が始まる。
- 明治 45年 阪堺線が開通する。

昭和

- 昭和 4年 阪和線が開通し沿線の市街化が始まる。
- 昭和 17年 泉北郡浜寺町、鳳町、踞尾村などが堺市に編入され、海浜は夏季には海水浴場として賑わう。
- 昭和 22年 浜寺石津耕地整理が完了。この頃紀州街道や熊野街道（小栗街道）は大改修され、直線状の新道が開通し、鳳や菱木の内陸部に大規模な工場が進出してくる。
- 昭和 33年 臨海工業地の埋立てが始まり、石油コンビナートなどが集積する、堺第一の製造業地区へと発展する。白砂青松の海岸は消失し海水浴場は廃止されるが、松林は存続する。
- 昭和 36年 泉北郡福泉町が編入される。
- 昭和 40年頃 津久野に大規模な公的住宅団地が造成される。
- 昭和 49年 第二阪和国道（国道26号）が開通する。
- 昭和 56年 築港新町の埋立事業が完了する。

平成

- 平成 8年 西支所が鳳に開所する。
- 平成 18年 堺市の政令指定都市移行に伴い区制となり、西区が誕生する。西支所は西区役所となる。

2 特徴

① 海のあるまち

西区の西部は大阪湾に面しており、臨海部には、重化学工業など大規模な工場が集積しています。産業公害の防止や地域住民とのリスクコミュニケーション*に努め、良好な生活環境づくりを推進することが求められます。

また、臨海部の堺第7-3区にある約34haのみなと堺グリーンひろばには、野球場や運動ひろば、芝生ひろばなどがあり、海風の中、レクリエーション広場として親しまれています。堺第7-3区の北側は、「共生の森」として緑化が進められています。

平成23年9月には、日本最大級のメガソーラー（大規模太陽光発電所）が全区画で稼働し、堺第7-3区のエコタウン、スポーツ広場の経済的・教育的活用や、臨海部へ繋がる道路交通網の整備・交通基盤の確保が求められます。

*リスクコミュニケーション：社会を取り巻くリスク（危険に遭う可能性や損をする可能性）に関する正確な情報を、行政、専門家、企業、市民などの関係主体間で共有し、相互に意思疎通を図ること。



みなと堺グリーンひろば

② 交通アクセス

西区には、主要幹線道路として、南北に阪神高速道路4号湾岸線、国道26号、府道大阪臨海線、府道堺阪南線、府道大阪和泉泉南線等が、東西には府道泉大津美原線や常磐浜寺線があります。

また、西区の骨格をなす都市計画道路のうち、錦浜寺南町線、諏訪森神野線、鳳上線の3路線と南海本線の連続立体交差が、現在事業中です。

一方で、西区の重要な幹線道路網である都市計画道路、常磐浜寺線や南花田鳳西町線等の一部区間が未整備であり、事業化に向けての取り組みが望まれます。

また、西区では、東西の交通アクセスの整備や狭あい道路の拡幅などによる身近な生活道路の環境改善が求められており、一般道路の交通渋滞に伴う交通安全上の課題を抱えています。

さらに、区内の各地域同士のネットワークづくりや、まちづくりと連携した交通アクセスの改善などの取り組みも必要です。



③ 水と緑

西区は、堺泉北港、浜寺公園と泉北臨海緑地に挟まれた浜寺水路、石津川や百済川等の河川、鶴田池や万崎池等の多数のため池など、多様な水辺空間を有しています。

区域北部の市街地にはため池を利用した公園等が整備され、水と親しめる空間も創出されています。浜寺水路は階段状のコンクリートで護岸整備され、ボート練習や散策等に利用されています。

また、「大阪みどりの百選」に選ばれた浜寺公園や、世界文化遺産登録をめざす巨大前方後円墳・履中天皇陵古墳、寺社の境内などにまとまった緑がみられ、南部には田畑が広がり、小規模な樹林地もみられます。臨海部には、みなと堺グリーンひろば等に緑がみられるとともに、「共生の森」として緑化が進められています。こうした水辺空間や緑の保全・再生を図るとともに、新たな自然とのふれあいの場として活用を進めることが求められます。



浜寺水路

④ 歴史・文化資源

西区には、四ツ池遺跡にみられるように弥生時代に集落が栄えた場所もあり、履中天皇陵古墳、文珠塚古墳などの遺跡のほか、多くの由緒ある寺社など歴史・文化資源が多数あります。

平成10年に国の登録有形文化財となった南海本線浜寺公園駅及び諏訪ノ森駅西駅舎のような歴史的建造物もあります。また、西区内各地において行われているだんじり祭りをはじめとして、石津太神社のとんど祭り（火祭）「やっさいほっさい」や大鳥神社の「にいび」など、伝統行事が盛んに行われています。紀州街道、熊野街道（小栗街道）の2つの歴史街道が通り、一部には歴史的なまち並みの面影を残しているところもみられます。

これらの歴史・文化資源の保存、活用を図ることにより、活力あるまちづくりに取り組む必要があります。

⑤ 住環境

分譲マンションや小規模な戸建て住宅などの供給が活発な地域、戦前から開発された良好な住宅地域、計画的に整備された低層の住宅や中高層の公的住宅が立地している地域など、様々な形態の住環境があります。

駅を中心に市街地の整備が進められている地域や、集合住宅の建替えによる空閑地の利用が進められている地域もあります。

良質な住環境を維持保全することにより、西区の住宅地イメージを向上させる必要がある一方、老朽住宅が密集し、公共施設が不足している地域に対しては防災性の向上を図り、さらに、防犯上の不安がある地域など、個別建物の耐震化も含め居住環境の改善を図ることが求められています。

⑥ 住民主体の積極的なコミュニティ活動

西区では191の単位自治会が小学校区ごとにまとまって、14の校区自治連合会を組織し、西区安全パトロール隊による自主防犯パトロールや自主防災訓練をはじめとした防犯・防災活動や、環境美化活動、子育て支援活動など、様々な地域活動を活発に展開しています。

また、西区民生委員児童委員協議会や校区福祉委員会などが地域福祉活動に積極的に取り組んでいるほか、「松の木会」や「浜寺諏訪森を考える会」、「鳳駅南地域まちづくり協議会」など、住民主体でのまちづくり活動が活発に行われています。



堺市西区自主防災合同訓練

⑦ 『地域活動についてのアンケート調査』より

本調査は、自治会長や各種団体の役員など、西区内各地域で活動をしている人に、地域活動の状況や課題、地域活性化のための考えなどを聞き、今後の西区まちづくりの基礎資料とするために平成19年度に実施しました。

アンケートでは、防犯や防災に不安を感じている人の割合が高くなっており、“ほぼ定期的実施している地域活動”としては、「子どもの安全などの見守り活動」（67.3%が実施）が最も多くなっていました。

また、今後の地域のまちづくりに向けて“特に重要である”と思うのは、「子どもから高齢者まで安心してらせるまち」（66.2%）と「防犯、防災対策の充実した安全・安心なまち」（65.3%）の2項目がとりわけ多くなっていました。

課題の解決に向けて必要なことは、「住民が地域のことにもっと関心をもつこと」（62.6%）と考えている人が最も多い割合となっています。



諏訪ノ森駅